



おひざのうえで

(副園長の子育ておうえん通信)(2022年3月)



せんりひじり幼稚園
副園長 安達かえで

「平和・共に生きるということ」

ロシアのウクライナ攻撃から20日たった今も、停戦の気配もなく次々とウクライナの町を破壊していく残酷な状況に言葉を失います。ウクライナとロシアの外相の協議も何のためだったのか、交わるところも見当たらず、ロシアの信じられない主張に、不信感と恐ろしさを隠せません。遠い国で起きていることですが、このような事態に胸を痛め、我が子の未来の平和を祈る保護者のかたも多いかと思えます。

爆撃におびえ、地下シェルターに身を寄せる子どもたち。恐怖で泣きながら家族と避難するウクライナの子どもたち。学校や病院が爆撃され、罪もない子どもたちまでも巻き込まれて命を落としていきます。一方で、家族と共に反戦の抗議をして、捕らえられるロシアの子どもたち。言葉や行動の自由を失い、自分の考えを表現することすらできなくなっています。もはやここまでくると、対岸の火事と言っられない気持ちになります。今、私たちにできることは何でしょうか。

人との信頼関係の中で、安心して自己発揮をしながらすくすくと育っていくこの時期に、このような恐怖・不安・憎悪の感情を抱きながら育っていくとどうなっていくのでしょうか。ロシアでは、この戦闘を正当化する教育番組が各学校に放映されたというニュースを見ました。長期的に国を豊かに変えていくのは、お金でもなく食糧でもなく、教育だと言われています。しかし、間違った教育が、国の未来に暗い影を落としていきます。この国はどこに向かっていくのでしょうか。

平和は双方の平等な対話によって成り立ちます。一方的な主張で作り上げるルールは独裁を招き、暴力的だと言えます。そして、そんなことは幼稚園の子どもでもわかることです。友だちや家族と一緒に何かをする喜びや楽しさを知っていることが、「仲良くしたいから、仲良くするために・・・」相手を思いやり、気持ちを調整するようになっていきます。

幼稚園では、日常の遊びや生活の中で、様々な対話をしながら過ごします。友だちを思いやり、折り合いをつけながら、居心地のいい関係性や場所を自分たちで作り上げることをしていきます。

先日の年長組のお泊まり保育では、グループでの出し物の話し合いで、やりたいことがぶつかり合ったときに、友だちの思いと自分の思いを調整する姿が見られました。これが共に生きることに繋がり、平和への道だと感じます。

ウクライナやロシアの未来ある子どもたちの心に暗い影がこれ以上深まりませんように。出来るだけ早く幸せな記憶で塗り替えられていくことを祈ります。

先日は、卒園式のリハーサルでした。園庭で春の優しい風邪に吹かれながら、堂々と卒園証書を受け取る子どもたちの一人一人の顔を眺めながら、「どうかこの子たちが、たくさんの幸せと出会いますように。そしてたとえ困難なことに出会ったとしても、自分の力を信じて乗り越えていけますように。」と祈りました。幼稚園で対話をしながら民主的に過ごしてきた卒園生たちに、自信をもって未来を託します。

寂しくなるけど、卒園おめでとう。

[ご意見や感想は kaede@hijiri.ed.jp](mailto:kaede@hijiri.ed.jp) までどうぞ